

様 式 F - 7 - 1

## 科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）実施状況報告書（研究実施状況報告書）（平成24年度）

1. 機関番号 

3	2	6	9	2
---	---	---	---	---

 2. 研究機関名 東京工科大学
3. 研究種目名 挑戦的萌芽研究 4. 補助事業期間 平成23年度～平成25年度
5. 課題番号 

2	3	6	5	3	1	3	7
---	---	---	---	---	---	---	---
6. 研究課題 業務のコンピュータ化に伴う隠れた労働の可視化に向けたワークスペースの相互行為分析
7. 研究代表者

研究者番号	研究代表者名	所属部局名	職名
0 0 3 2 5 8 9 6	ヤマザキ アキコ 山崎 晶子	メディア学部	准教授

## 8. 研究分担者

研究者番号	研究分担者名	所属研究機関名・部局名	職名
8 0 1 9 1 2 6 1	ヤマザキ ケイイチ 山崎 敬一	埼玉大学・教養学部	教授

## 9. 研究実績の概要

24年度は、大別して三つの活動を行った。

1, 様々なワークスペースを比較研究するために、ミュージアムや高齢者施設での既存データの調査研究を行った。高齢者施設におけるケアワーカーの複数のタスクの処理のありかたを、高齢者との相互行為において考察した。特に、高齢者の発話のタイミングと介護者が主に行っているタスクの終了を観察し、その結果を考察した。これらの分析は、論文として発行する予定である。2, 会議場面の分析：協同組合と企業における会議場面の比較を行った。前者は開始時間は決まっているが終了時間が決まっておらず、後者は議事進行が参加者に見える形で提示され開始時間も終了時間も決まっていた。しかし、この二つの会議において共通することとして、参加者の身体配置と視線が発話の順番取りに関わっていることを発見した。この分析も論文として発表する予定である。3, ワークスペースの観察：研究協力者の所属する企業でのビデオ撮影を行った。

本研究の意義

1, 「サービス場面」でのワークの実践の可視化。様々なワークスペースにおける行為を、複数のタスクとその遂行という観点から分析を行った。それによって、「サービス場面」におけるタスクの遂行と、通常の「ワークスペース」におけるワークの実践のありかたの違いを明らかにした。2, 言語的行為と身体的行為の協調。ワークスペースにおいても、実験場面においても、相互行為において人間は言語的行為と身体的行為を協調させている。オフィスなどのワークスペースでは、身体の配置があらかじめ決められていることが多い。この身体の配置によって、身体的行為が言語的行為と協調することが困難になることを示した。この知見を出発点として、遠隔会議やオフィスでのフリーアドレスの問題にも取り組む予定である。3, フィールドワークを通じたワークの実践の明確化。ワークの断片化をはじめとしたワークの実践を、説明可能にした。

## 10. キーワード

- |            |                        |              |            |
|------------|------------------------|--------------|------------|
| (1) 会議場面   | (2) 言語的行為と身体的行為の<br>協調 | (3) ワークブレース  | (4) 断片化    |
| (5) 相互行為分析 | (6) 会話分析               | (7) フィールドワーク | (8) ワークの実践 |

## 11. 現在までの達成度

(区分)(3) やや遅れている。

(理由)

24年度は、企業側の協力が得られたため、フィールドワークを行うことが可能だった。そして、その会議場면을学生の協力を得て、分析を行い、ワークの場面における視線をはじめとする身体配置の重要性を見いだすことができた。また、企業側でも、研究会を行い、われわれの研究の成果をともに検討することができた。しかし、十分なデータを得るために必要な長期間に及ぶフィールドワークは、一連の研究会を行い理解を得た後に認められた。そのため、フィールドワークの回数がやや不足した。

## 12. 今後の研究の推進方策 等

(今後の推進方策)

25年度は総括年に当たるため三つの方策をとる。

- 1, フィールドワークの実践: 25年度は1年間、フィールドワークを行う。ミュージアムでの相互行為場面、高齢者施設などでのサービス場面を、オフィス環境でのワークの実践と比較分析して、その特徴を解き明かす。
- 2, ワークの多相性の解明: 総括年としてワークの分断化や複層的なタスクのありかた、整序や順番のありかたを相互行為分析において明らかにする。
- 3, フィールドへの還元: 協力をいただいたフィールドに、分析の結果を示し、日常の実践として社会学者からの知見を示す。またフィールドでの対象者との議論を通じて、われわれの知見が対象者の実感と適合するか、またそれを説明することが可能であるかを検証する。さらに、フィールドでのワークの実践の円滑化に協力を行う。

(次年度の研究費の使用計画)

該当なし

## 13.研究発表(平成24年度の研究成果)

〔雑誌論文〕計(1)件 うち査読付論文 計(1)件

著者名		論文標題			
小林貴訓, 高野恵利衣, 金原悠貴, 久野義徳, 小池智哉, 山崎晶子		同伴者の振舞いの観察に基づいて自動併走するロボット車椅子			
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁	
情報処理学会論文誌	有	vol.53, no.7	2012	pp.1687-1697	
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)					
なし					

〔学会発表〕計(3)件 うち招待講演 計(0)件

発表者名		発表標題	
Yoshinori Kobayashi, Ryota Suzuki, Yoshihisa Sato, Masaya Arai, Yoshinori Kuno, Akiko Yamazaki, Keiichi Yamazaki		Robotic Wheelchair Easy to Move and Communicate with Companions	
学会等名	発表年月日	発表場所	
CHI 2013	2013年04月29日～2013年05月01日	Paris, France, Le Palais des Congres de Paris	

発表者名		発表標題	
R. Suzuki, Y. Sato, Y. Kobayashi, Y. Kuno, K. Yamazaki, M. Arai, A. Yamazaki		Robotic Wheelchair Moving Alongside a Companion	
学会等名	発表年月日	発表場所	
International Conference on Human-Robot Interaction (HRI2013) Demonstration	2013年03月04日	東京、日本、日本科学未来館	

発表者名		発表標題	
新井雅也・山崎晶子・小林貴訓・久野義徳		不可視3マーカを用いた複数ロボット車椅子の位置認識	
学会等名	発表年月日	発表場所	
電子情報通信学会総合大会	2013年03月20日	岐阜、日本、岐阜大学柳戸キャンパス	

(図書) 計( 0 )件

著者名	出版社			
書名			発行年	総ページ数

## 14. 研究成果による産業財産権の出願・取得状況

(出願) 計( 0 )件

産業財産権の名称	発明者	権利者	産業財産権の種類、番号	出願年月日	国内・外国の別

(取得) 計( 0 )件

産業財産権の名称	発明者	権利者	産業財産権の種類、番号	取得年月日	国内・外国の別
				出願年月日	

## 15. 備考

6月までにはurlを公開する。

--